

【台湾視察報告】

寄稿：一般社団法人 漢方産業化推進研究会 代表理事 渡辺賢治

令和1年 11 月 11 日

漢方産業化推進研究会では、今年度活動として漢方・生薬の出口戦略から国内六次産業化を考えています。

増大する社会保障費は将来世代の大きな負担になることが予想されており、未病の改善を漢方でいかに推進するかも大きな課題です。

これらの状況を踏まえて、本年度の視察先に選んだのは台湾です。

2019年11月4日～5日の二日間、当研究会事務局・会員企業様で、台北と台中を訪問しました。台湾には医食同源が生活に根付いており、漢方の原料を日常的に使うことで、未病を改善しています。

台北市の夜市では、老若男女を問わず日常の食事として十全大補湯鍋を食していることを見聞き、私たちも実際に食しました。生薬市場では、市民が薬としてだけでなく、食品として多くの生薬または生薬製剤を買う姿を目にし、漢方・生薬文化が日常に根付いていることを実感しました。

今回の視察では、当研究会の会員企業でもある順天堂薬廠股份有限公司様の工場見学や本社訪問にて歓待をいただき、本視察において大変有意義な情報に接する機会を頂戴したばかりでなく、私たちの台湾滞在中、大変効率よく視察ができるように視察の旅程・内容・移動等全てにおいて、ご差配、ご高配をいただいたことを心より感謝申し上げます。